

# 小学校体育授業での「応援」の学習とその効果

宇都宮 由愛 ( 愛媛大学 )

## 1. 目的

本研究では、小学校体育授業において「応援の学習」をねらいにした指導計画を作成し、授業実践を重ねながら改善を図り、その有効性や課題について考察することにした。その結果をもとに、今後の体育授業で適用できる「応援」の学習モデルを提案することが本研究の目的である。

## 2. 研究方法

### 1) 対象者

愛媛県 A 市と B 市の小学校 7 校 8 学級の児童 90 名を対象とした。

### 2) 指導計画の作成

「応援」の意義や心得、具体的な方法を体験的に学習する 1 時間完結型の授業モデルを作成した。授業の主な構成は、以下の表 1 とおりである。

表 1. 授業の主な内容 (展開)

- |                          |
|--------------------------|
| 1. イメージの共有 (映像視聴)        |
| 2. 応援の行い方の提示             |
| 3. ミニゲーム (オリジナル応援の作成・実践) |
| 4. ふりかえり (応援スピリッツのまとめ)   |

### 3) 調査方法

授業の成果と課題を確認するために、以下の調査を実施した。

- ① 児童からみた授業評価 (授業前・後)
- ② 児童の授業に対する感想 (授業後)
- ③ 学級担任からみた授業評価 (授業後)

## 3. 結果と考察

### 1) 児童の「応援の意義」の理解の深まり

児童の感想から、多くの児童が実際に応援をしたり、されたりすることで、応援の意義や効果、必要性について実感していたことが確認できた。

児童からみた授業評価では、応援の意義や効果、必要性の質問項目で「とてもそう思う」と回答し

た児童が授業前後では 14~20%増加しており、応援の学習で体験的な学びを行うことで、児童がその意義や効果、必要性について体感することができ、理解につながっていることが確認できた。

### 2) 児童の「応援の行い方」の理解の深まり

授業評価の応援の行い方の項目について、授業後には「声援」と「態援」の方法と内容についてより具体的な内容が記述されていた。また、児童の感想でも応援の学習を通して、効果的な応援の行い方について新たな気づきを得た児童が多くみられた。

### 3) 児童の「応援への主体性」の高まり

児童の感想では、多くの児童が「応援をもっとやりたい」「体育の授業で学んだことを生かしたい」「応援を頑張りたい」といった応援に対する意欲の向上がみられた。また、学級担任からは、「授業後に『ナイス』『ファイト』などの前向きな言葉がけが継続されていた」や、「体育授業で児童が積極的に応援をするようになった」などのコメントが寄せられ、児童の応援への主体性が確認できた。

## 4. 結論

本研究では、小学校の体育授業における「応援」の学習は、児童が応援の意義や効果、行い方を理解し、体育授業や日常生活での「応援」に対する意欲を向上させることにつながった。このような結果が得られた理由として、「応援の学習内容を明確化して指導したこと」「応援について体験的に学んだこと」の 2 点が要因として考えられる。特に、具体的な事例をあげながら応援について体験的に学ぶことは、児童が応援されたり、応援することで、応援の意義や効果、必要性について、肌で感じることができ、みんなで一緒に盛り上がることのおもしろさや楽しさ、応援自体のおもしろさを体感したのではないかと考える。